

「2022年度秋季研究発表大会」のお知らせ

更新：2022/8/29（要旨締切期限の1週間延長、協賛団体の追記）

2022/9/21（研究発表プログラム・会場詳細情報の掲載）

第34回 国際P2M学会 研究発表大会 The 34th Congress of International P2M Association

「さまざまな社会課題に挑む地域コミュニティにおける協働と共創のP2M —地域社会の中長期的な未来を展望する—」

2022年度の国際P2M学会秋季研究発表大会を、下記の要領にて開催いたします。大会テーマは、「さまざまな社会課題に挑む地域コミュニティにおける協働と共創のP2M」です。つきましては、会員の皆様の研究発表を募集いたします。発表ご希望の会員は、今後ご案内する申し込み要領をご参照のうえ、期限までにお申し込みください。

なお、本大会は早稲田大学会場における対面とオンラインのハイブリッド形式（予定）にて開催いたします。遠方の方でもご自宅やご勤務先からご参加いただけますので、ぜひこの機会をご利用いただければ幸いです。

1. 大会テーマ

「さまざまな社会課題に挑む地域コミュニティにおける協働と共創のP2M
—地域社会の中長期的な未来を展望する—」

2. 開催日・形式

開催日：2022年10月15日（土）

開催校：早稲田大学

会場：早稲田大学リサーチイノベーションセンター（121号館） B1F
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町5-1-3

開催形式：会場と配信のハイブリッド（新型コロナウイルス感染拡大状況等により変更する可能性もあります）

※インターネットに接続可能なパソコンやタブレットPC、スマートフォン等からご参加いただけます。

発表方法や参加方法の詳細は、決定次第本学会のHP上に掲載します。

3. 開催団体に関する情報

主催：一般社団法人 国際P2M学会（※）

共催：早稲田大学環境総合研究センター

会長：国際P2M学会会長 山本秀男

実行委員長：早稲田大学環境総合研究センター 研究院教授 永井祐二

実行副委員長：同志社大学政策学部教授 大和田順子

※一般社団法人 国際P2M学会：国際P2M学会事務局 〒162-0801東京都新宿区山吹町358-5

アカデミーセンター（平日：10時～17時）TEL: 03-6824-9371 / FAX: 03-5227-8631

協賛（五十音順）：研究・イノベーション学会

4. 大会要旨

地球温暖化対策、生物多様性、循環型社会、地方創生、災害対応さらにはウイルス対策など、昨今のさまざまな社会課題への適応は、地域のさまざまなアクターと共に取り組む協働と、そこから新しいリジェネラティブな価値を生み出す共創が求められています。

これまでの P2M 学会でも「超 VUCA な時代」「アジャイル・ガバナンス」などがテーマとなり、そのゴールさえも暫定的な絵姿に取り組む P2M のあり方が話題となりましたが、特に地域社会の課題は、昨今その複雑性を増しており、専門家でも予想できない、不確定な要素があります。その上、中長期的なスパンで取り組む必要がある課題や、場合によっては世代を渡る未来世代をもステークホルダーとした課題まで生じています。

そうした背景において、本大会では 2050 年（もしくは、その先）の未来を想定し、P2M と多様な「地域社会課題、地域コミュニティ」の関わりに関する知見を集め、新たな地域マネジメントの担い手も含めた議論を展開します。マネジメントの対象を多様化してきた本学会の特性を活かし、P2M の適用可能性の未来を議論します。

以上のとおり、「さまざまな社会課題に挑む地域コミュニティにおける協働と共創の P2M」をテーマに、皆様と議論していきたいと思っております。多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。

5. 大会スケジュール： ※ 都合により、変更される場合があります。

(1) 午前：研究発表の部 ※発表プログラムは暫定版を 9 月下旬までに、最終版を 10 月上旬以降に学会ホームページに掲載します

09:30 - 12:00 研究発表

(2) 講演の部

(総合司会：永井祐二実行委員長)

13:00 - 13:10 開会挨拶 山本秀男 氏 (国際 P2M 学会会長)

開催校挨拶 友成真一 氏 (早稲田大学環境総合研究センター 所長・教授)

13:10~14:10 基調講演 1：「環境・経済・社会を統合したローカル SDGs と P2M (仮)」

谷畑英吾氏 (滋賀県湖南市前市長・全国市長会前副会長)

14:10~14:30 休憩

14:30~15:30 基調講演 2：「長期的な災害復興に取り組む P2M 次世代をステークホルダーに (仮)」

菅波香織氏 (弁護士・未来会議事務局長 (福島県浜通り))

15:50~17:30 パネルディスカッション：地域社会の未来展望と P2M

モデレータ：大和田順子 氏 (同志社大学教授)

パネリスト (順不同)：

嶋田俊平氏 (株式会社さとゆめ代表取締役)

社会起業家 (早稲田大学学生)

17:30 - 17:40 閉会挨拶 亀山秀雄 氏 (国際 P2M 学会副会長)

6. 研究発表大会参加費関連

◆ 大会参加費：今大会の参加費支払いは 全て事前振込みのみにて受け付けます。

下記学会の銀行口座宛にお振込下さい。(振込最終締切：2022 年 10 月 7 日 (金))

10 月 10 日以降は、参加申込ならびに参加費振込の受付は致しません。

また、10 月 7 日迄に未振込の場合は、投稿論文を予稿集に掲載致しません。

	早期割引参加費 (9月23日まで)	参加費 (9月24日～10月7日)
会員 : 正会員、法人会員に所属の方	: 8,000 円	9,000 円
: 学生会員	: 2,000 円	3,000 円
非会員 : 社会人、社会人学生	: 11,000 円	12,000 円
: 学生、大学院生	: 4,000 円	5,000 円

※予稿の筆頭著者（当日の発表者）は、国際 P2M 学会会員に限られます。当学会に未加入の方は、遅くとも 2022 年 10 月 7 日（金）までに入会手続きを済ませてください。新規入会には、上記参加費とは別に、正会員が 12,000 円（入会金 2,000 円、年会費 10,000 円。社会人学生を含みます）、学生会員が 6,000 円（入会金 1,000 円、年会費 5,000 円）、必要となります。

尚、入会費の振込み先は ホームページ及び入会申請フォームに記載の「ゆうちょ」口座です。大会参加費振込口座とは異なりますのでご注意ください。

入会手続きの詳細は、学会ホームページから、こちらをご覧ください

→ <http://iap2m.org/accept>

◆ 講演の部のみの参加費：学会員、非会員とも：無料

※P2Mにご関心をお持ちの方々の参加を広く呼びかけるために、本大会について、午後の部のみの参加は無料とします。午後の部のみ参加の場合も、必ず参加申し込みはおこなってください。

◆ 大会参加費振込み先銀行口座：

三井住友銀行（銀行コード：0009）

飯田橋支店（店番号：888）

普通預金（口座番号：7098073）

口座名義（一般社団法人 国際 P2M 学会）

※大会参加申し込み Web 画面で「領収書 ●必要」を選択した方には、大会開催後、領収書（PDF）をメールで送付いたします。

◆ 留意事項

※ 振込済みの参加費は、不参加の場合でも返金できません。

7. 参加申し込み方法

◆ 参加申込期限：

論文投稿者 9月19日（月）迄に申込み登録を済ませてください。

大会参加のみの方：参加費振込の最終締切 10月7日（金）迄に申込登録を済ませてください。

◆ 研究発表大会参加申し込みはこちらから（注. 発表者も、申込み登録が必要です）

http://www.iap2m.org/regist_taikai.html

◆ 参加登録に関する参考情報

ブラウザが Internet Explorer の場合、バージョンが新しいと無応答になる場合があります。

次の操作を参考にしてください。 <http://www.iap2m.org/pdf/ie201309.pdf>

8. 発表者への要旨と予稿の投稿登録に関するご案内

- ◆ 要旨の投稿期限及び方法：これに基づく研究発表プログラムは別に掲載します。

投稿期限：2022年9月5日(月)23時59分(厳守)：締め切りました

投稿方法：要旨は、次の URL から、web 登録画面に従い入力して下さい。

http://www.iap2m.org/regist_smallcongress.html

査読選択：予稿論文の審査を希望される方は、査読希望「●有」を画面上で選択してください。

尚、採択後の論文の学会誌掲載料は 30,000 円です。

スライド形式のみの予稿も歓迎します。但し、その場合、査読は選択できません。

- ◆ 発表予稿投稿期限：2022年9月19日(月)18時：締め切りました

(厳守 ※締め切後の投稿は一切受け付けられません。)

投稿方法：要旨投稿時に登録されたメールアドレス宛に、後日、編集委員から「予稿投稿方法」に関するメールが届きます。それに従い、MS-Word および PDF 形式の予稿を投稿してください。

- ◆ 受付メール確認のお願い

要旨及び予稿投稿後各 1 週間以内に、編集委員より受付メールを登録アドレス宛に送信します。

なお「(at)iap2m.org ((at)を@に読みかえてください。)」のドメインから届くメールが、迷惑メールフォルダに入らないように設定してください。万が一、着信しなかった場合は、下記学会事務局宛にお問い合わせ下さい。

国際 P2M 学会事務局 <http://iap2m.org/con-2/>

- ◆ 査読を希望される方へ：

査読論文：当学会では、予稿が査読論文として審査されます。

ただし、発表された論文に限ります。

頁数：最大 20 ページ

論文形式：本学会 HP「学会論文関連情報」(下記 URL)にある規程等(「学会論文投稿規程」、「学会論文投稿規程補足」、「著作権規程」)を遵守してください。合わせて「学会論文審査規程」についてもご確認ください。また「書式サンプル」も下記 URL に掲載されていますので、ご活用ください。

学会論文関連情報：<http://iap2m.org/ronbun-info/>

補足：(1) 予稿集に掲載された論文は、辞退などにより発表されなかった場合も、同じ内容では再投稿はできません。

(2) 予稿に P2M との関連性と関連参考文献を明記願います。

当学会の過去の論文誌は、J-stage から閲覧できます(最新号は会員のみ閲覧可)。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/iappmjour/-char/ja>

(3) 論文執筆経験が浅い方は、次のリンクにある Youtube「IAP2M チャンネル」にある P2M の基礎知識、事例による P2M の理解、論文の書き方に関する動画を視聴するほか、学術論文作成経験者から論文作成の指導を受けることをお勧めします。

<https://www.youtube.com/channel/UCeBCLQNhDeNApbaYVi7EfuA>

英文の要旨(または英文本文)は、可能な限り英文としての品質向上に努めて下さい。

- ◆ 発表奨励賞：各発表分野別に受賞者を選出し 11 月中旬に学会ホームページ上に掲載し表彰します。

9. P2M セミナー動画の更新、掲載

国際 P2M 学会では、P2M の基礎知識や適用事例を知りたい方、本分野での研究発表や論文投稿経験の浅い方のために、これらを本学会ベテラン講師陣が分かりやすく解説した次のセミナー動画（YouTube）を作成しています。

詳しくは、次のリンクをご参照ください。

<http://iap2m.org/youtube/>

10. 詳細プログラム・会場アクセス：次ページ以降のとおり

11. お問い合わせ先：国際 P2M 学会事務局 <http://iap2m.org/con-2/>

研究発表大会詳細プログラム

午前の部（研究発表）			
会場	A会場（第6会議室 B113）	B会場（第7会議室 B114）	C会場（第8会議室 B115）
研究発表トラック	P2M・研究開発・企業経営	社会開発	Wトラック
座長	沖浦文彦(A-1～2)・玉木欽也(A-3～5)	佐藤達男(B-1～2)・西田絢子(B-3～5)	田隈広紀(C-1～2)・小笠原秀人(C-3～5)
9:45-10:05	A-1:亀山秀雄 社会変革の中で必要なマネジメントと論文から見たP2Mの適応領域と有効性	B-1:加藤美治、橋山智訓、田野俊一 実践コミュニティを支援するWebプラットフォームの要件調査と実装提案	C-1:岡田久典 AEONTOWAリサーチセンターにおける教育プログラムのマネジメントについて
10:05-10:25	A-2:秋山凜太郎、西田絢子 プロジェクト・パーパス導入に関する研究	B-2:岩崎祐子 P2Mを活用した地域型事業継続マネジメント（Area-BCM）の考察	C-2:中野健太郎、永井祐二、岡田久典、小野田弘士 カーボンニュートラル政策における削減マネジメント上の課題と展望
10:25-10:45	A-3:齊藤毅、中村正伸、井芹薫、中島洋行 ウォーターフォールおよびアジャイルP2Mのためのマネジメントコントロールパッケージ：国内大手保険業A社情報システム開発の事例	B-3:松本季海芳、沖浦文彦 文化遺産の観光活用における持続可能なマネジメントに関する考察 ー世界の持続可能な観光地100選に選出された白川郷を事例としてー	C-3:李洸昊、永井祐二、中野健太郎 福島復興における対話の場の創出とそのマネジメント
10:25-10:45	A-4:大野宏之 P2Mスキームモデルによる「ずらし」と「もたらし」を用いた発想の仕組みにおける循環プロセスによって創出されるシナジーと、その商品デザインへの波及効果	B-4:南谷太一、沖浦文彦 不確実で複雑な災害リスク削減に資するODAプログラムマネジメントを通じた価値創出のための充足条件の考察	C-4:岡田久典、永井祐二、山本百合子、中野健太郎、李 洸昊、三津川真紀、関研一 地域社会課題解決事業におけるプログラムマネジメントの研究
10:45-11:05	A-5:岡田公治 ビジネス環境シミュレータと機械学習エージェントを用いたプロジェクト&プログラムマネジメントに関する仮想実験環境	B-5:小笠原由佳、沖浦文彦 P2Mフレームワークからみた「休暇預金等活用制度」の現状と課題	C-5:永井祐二、中野健太郎、岡田久典、平塚基志 稲作を中心として考える脱炭素化に対応したバイオマス活用研究のロジックモデル構築
11:05-11:15	休憩		
11:15-12:00	「社会の変化に対応したP2Mの適応性と有効性」についての座談会		
コマツホール B101	司会 岡田久典氏（早稲田大学 上級研究員・国際P2M学会 評議員）		
12:00-13:00	昼休み		
午後の部（挨拶・基調講演・パネルディスカッション） 場所：コマツホール B101			
13:00-13:10	開会挨拶：山本秀男 氏（国際P2M学会会長）		
13:10-14:10	開催校挨拶：小野田弘士 氏（早稲田大学環境総合研究センター 所長・教授）		
13:10-14:10	基調講演（1）：谷畑英吾 氏（滋賀県湖南市前市長・全国市長会前副会長） 「環境・経済・社会を統合したローカルSDGsとP2M（仮）」		
14:10-14:30	休憩		
14:30-15:30	基調講演（2）：菅波香織 氏（弁護士・未来会議事務局長（福島県浜通り）） 「長期的な災害復興に取り組むP2M 次世代をステークホルダーに（仮）」		
15:30-15:50	休憩、設営		
15:50-17:30	パネルディスカッション：「地域社会の未来展望とP2M」 モデレーター：大和田順子 氏（同志社大学政策学部 教授） 谷畑英吾 氏（滋賀県湖南市前市長・全国市長会前副会長） 菅波香織 氏（弁護士・未来会議事務局長（福島県浜通り）） 嶋田俊平 氏（株式会社さとゆめ代表取締役） 小泉勇輔 氏（早稲田大学学生） 和田義明 氏（国際P2M学会 理事）		
17:30-17:40	閉会挨拶：亀山秀雄 氏（国際P2M学会副会長）		

（注）今後、都合により発表プログラムや座長などに若干の変更が加わる可能性があります。

会場アクセス



121号館の外観